

四 半 期 報 告 書

(第26期第 3 四半期)

I N E S T 株式会社

東京都豊島区東池袋一丁目25番 8 号

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
3 【経営上の重要な契約等】	6
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	9
第4 【経理の状況】	10
1 【要約四半期連結財務諸表】	11
2 【その他】	47
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	48

四半期レビュー報告書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書(2022年 6 月28日付訂正報告書の添付インラインXBRL)

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の 4 の 7 第 1 項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年 2 月14日

【四半期会計期間】 第26期第 3 四半期(自 2021年10月 1 日 至 2021年12月31日)

【会社名】 I N E S T株式会社

【英訳名】 INEST, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 執行 健太郎

【本店の所在の場所】 東京都豊島区東池袋一丁目25番 8 号

【電話番号】 03-4216-2277(代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役常務 片野 良太

【最寄りの連絡場所】 東京都豊島区東池袋一丁目25番 8 号

【電話番号】 03-4216-2277(代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役常務 片野 良太

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第25期 第3四半期 連結累計期間	第26期 第3四半期 連結累計期間	第25期
会計期間	自 2020年4月1日 至 2020年12月31日	自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上収益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	3,214 (1,603)	4,652 (1,575)	4,890
税引前四半期(当期)利益 (△損失) (百万円)	126	△180	△5
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (△損失) (第3四半期連結会計期間) (百万円)	263 (15)	△213 (△75)	203
四半期(当期)利益 (△損失) (百万円)	263	△213	203
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益 (百万円)	263	△213	203
四半期(当期)包括利益 (百万円)	263	△213	203
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	1,844	2,277	2,173
総資産額 (百万円)	5,925	6,248	6,647
基本的1株当たり 四半期(当期)利益 (△損失) (第3四半期連結会計期間) (円)	3.61 (0.19)	△2.38 (△0.83)	2.68
希薄化後1株当たり 四半期(当期)利益 (△損失) (円)	3.61	△2.38	2.68
親会社所有者帰属持分比率 (%)	31.1	36.5	32.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	224	△461	302
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,189	△182	828
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△306	431	△28
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	1,670	1,454	1,666

- (注) 1. 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成した要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。
3. 第25期第3四半期連結累計期間の希薄化後1株当たり四半期利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、また、第26期第3四半期累計期間の希薄化後1株当たり四半期利益については、潜在株式は存在するものの逆希薄化効果を有するため、基本的1株当たり四半期利益と同額にて表示しております。
4. 当社は、2020年4月30日に当社の広告ソリューション事業のサービスを終了したことに伴い、同事業を非継続事業に分類しております。これに伴い、第25期第3四半期連結累計期間及び第25期の売上収益及び税引前四半期(当期)利益 (△損失) の金額については、非継続事業を除いた継続事業の金額で表示しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動也没有ありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。なお、当社グループは第1四半期連結累計期間より、従来の日本基準に替えて国際会計基準(以下「IFRS」という。)を適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度の数値もIFRSベースに組み替えて比較分析を行っております。

なお、当社は、主に飲食店等の事業者を対象に、広告メディア等のソリューションサービスを代理店として提供する事業を運営しておりましたが、当社グループの経営状況に鑑み、2020年4月30日に当該サービスを終了いたしました。当社の広告ソリューション事業のサービスの終了に伴い、同事業を非継続事業に分類しております。これにより、前第3四半期連結累計期間の売上収益、営業利益及び税引前四半期利益は非継続事業を除いた継続事業の金額で表示しております。

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間(2021年4月1日～2021年12月31日)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあります。国内外経済の先行きについては、感染拡大の防止策を講じ、ワクチン接種を促進するなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待されておりますが、感染の動向が国内外経済に与える影響に十分に注意する必要があります。

当社グループを取り巻く事業環境では、AIやIoTを活用したソリューションサービスの活用やBCP対策への対応、在宅勤務やリモートワーク等の働き方改革への対応等が求められており、当社グループにおけるこれらの売上高のシェアは2020年3月期から2021年3月期にかけて増加傾向にあり、昨今のコロナ禍をきっかけに、社会が大きく変わると予想される中で、そのニーズも急速に多様化していくと認識しております。

このような事業環境のもと、2020年8月1日を効力発生日として、株式会社アイ・ステーション及び株式会社Patch(現社名 Renxa株式会社)を当社の完全子会社とし、新たな経営体制へ移行いたしました。各社の販売網や販売チャネル、多数の顧客基盤と商品等を活かし、法人企業や個人消費者の顧客のニーズにあった商品の取り扱いを増加し、積極的に販売活動を展開してまいりました。

なお、当社グループにおいては感染力の高い新型コロナウイルスの変異株による社会全体での感染者の急増に伴い、感染拡大防止に留意し営業活動を行った結果、特に法人向け事業のフィールドセールスに影響が生じました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上収益は4,652百万円(前年同期比44.7%増)となり、営業損失169百万円(前年同期は営業利益144百万円)、税引前四半期損失180百万円(前年同期は税引前四半期利益126百万円)、親会社の所有者に帰属する四半期損失は213百万円(前年同期は親会社の所有者に帰属する四半期利益263百万円)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

① 法人向け事業

法人向け事業セグメントは、主に中小法人に対して、モバイルデバイスや新電力、OA機器等の顧客のニーズにあった各種商品を取次販売しております。

当第3四半期連結累計期間においては、中小法人に対する多数の顧客基盤や商品を活かした販売活動を積極的に展開してまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上収益は2,334百万円(前年同期比39.4%増)、セグメント利益は246百万円(前年同期比43.2%増)となりました。

② 個人向け事業

個人向け事業セグメントは、主に個人消費者に対して、ウォーターサーバーやモバイルデバイス、インターネット回線等の顧客のニーズにあった各種商品を取次販売しております。

当第3四半期連結累計期間においては、個人に対する多数の顧客基盤と商品を強みに、より顧客のニーズに寄り添った販売活動に注力してまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上収益は2,350百万円(前年同期比52.1%増)、セグメント利益は67百万円(前年同期比47.9%減)となりました。

(2) 財政状態の状況

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 2021年3月31日	当第3四半期連結会計期間末 2021年12月31日	増減
総資産	6,647	6,248	△399
負債	4,474	3,970	△503
資本	2,173	2,277	104

総資産は、主に現金及び預金、営業債権及びその他の債権の減少により、前連結会計年度末に比べて399百万円減少し、6,248百万円となりました。

負債は、主に営業債務及びその他の債務の減少により、前連結会計年度末に比べて503百万円減少し、3,970百万円となりました。

資本は、主に新株予約権の行使による株式の発行による収入300百万円があったことにより、前連結会計年度末に比べて104百万円増加し、2,277百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	224	△461
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,189	△182
財務活動によるキャッシュ・フロー	△306	431
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,670	1,454

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に営業債務及びその他の債務の減少により、461百万円のマイナスとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形固定資産及び無形資産の取得による支出により、182百万円のマイナスとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に新株予約権の行使による株式の発行による増加300百万円により、431百万円のプラスとなりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は1,454百万円となりました。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(6) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	310,795,700
A種優先株式	22,710,000
計	333,505,700

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2022年2月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	68,217,325	68,217,325	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
A種優先株式	22,710,000	22,710,000	—	(注)
計	90,927,325	90,927,325	—	—

(注) A種優先株式の内容は次のとおりであります。

(1) 単元株式数

単元株式数は100株であります。

(2) 剰余金の配当

当社は、普通株式を有する株主（以下「普通株主」という。）及び普通株式の登録株式質権者（以下「普通登録株式質権者」という。）に対して剰余金の配当を行うときは、当該剰余金の配当に係る基準日の最終の株主名簿に記載又は記録されたA種優先株式を有する株主（以下「A種優先株主」という。）又はA種優先株式の登録株式質権者（以下「A種優先登録株式質権者」という。）に対し、A種優先株式1株につき、普通株式1株当たりの配当額と同額の剰余金の配当を普通株主及び普通登録株式質権者に対する剰余金の配当と同順位で行う。

(3) 剰余財産の分配

- ① 当社は、剰余財産の分配を行うときは、A種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対し、普通株主又は普通登録株式質権者に先立ち、A種優先株式1株につき金99円（ただし、A種優先株式につき、株式の併合若しくは分割、株式無償割当て又はこれに類する事情があった場合には、適切に調整される。）を支払う。なお、A種剰余財産分配額の計算において、各A種優先株主の保有に係るA種優先株式の数に乗じた金額に1円未満の端数が生じるときは、円未満切上げとする。
- ② 当社は、前号に基づくA種優先剰余財産分配金の分配が行われた後、普通株主又は普通登録株式質権者に対して剰余財産の分配を行うときは、A種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対し、A種優先剰余財産分配金に加え、A種優先株式1株につき、普通株式1株に対する剰余財産分配金と同額の剰余財産分配金を、普通株主又は普通登録株式質権者に対する剰余財産分配金の分配と同順位で支払う。

(4) 議決権

A種優先株主は、法令又は定款に別段の定めがある場合を除き、株主総会において議決権を有しない。

(5) 株式の併合又は分割、募集株式の割当て等

- ① 当社は、株式の併合又は分割をするときは、普通株式及びA種優先株式毎に、同時に同一の割合で行う。

- ② 当社は、株主に募集株式の割当てを受ける権利を与えるときは、普通株式には普通株式の割当てを受ける権利を、A種優先株主にはA種優先株式の割当てを受ける権利を、それぞれ同時に同一の割合で与える。
- ③ 当社は、株式無償割当てをするときは、普通株主には普通株式の株式無償割当てを、A種優先株主にはA種優先株式の株式無償割当てを、それぞれ同時に同一の割合で行う。また、新株予約権無償割当てをするときは、普通株主には普通株式を目的とする新株予約権の新株予約権無償割当てを、A種優先株主にはA種優先株式を目的とする新株予約権の新株予約権無償割当てを、それぞれ同時に同一の割合で行う。
- (6) 種類株主総会
- ① 基準日に関する定款規程は、毎事業年度末日の翌月から3ヶ月以内に招集される種類株主総会にこれを準用する。
- ② 株主総会の招集に関する定款規程は、種類株主総会の招集にこれを準用する。
- ③ 株主総会の決議に関する定款規程は、種類株主総会の決議にこれを準用する。なお、会社法第322条第2項に規定する定款の定めはありません。

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年 月 日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年10月1日～ 2021年12月31日	—	90,927,325	—	410	—	2,091

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2021年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	A種優先株式 22,710,000	—	(注)
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 68,212,500	682,125	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 4,625	—	—
発行済株式総数	90,927,325	—	—
総株主の議決権	—	682,125	—

(注) A種優先株式の内容は、「第3 提出会社の状況 1. 株式等の状況 (1) 株式の総数等 ②発行済株式」に記載のとおりであります。

② 【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
(自己保有株式) I N E S T株式会社	東京都豊島区東池袋一丁目25 番8号	200	—	200	0.00
計	—	200	—	200	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下「IAS第34号」という。）に準拠して作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組み及びIFRSに基づいて連結財務諸表等を適正に作成することができる体制の整備について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組み及びIFRSに基づいて連結財務諸表等を適正に作成することができる体制の整備を行っております。その内容は以下のとおりであります。

(1) 当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適正に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入しております。

(2) IFRSの適用については、国際会計基準審議会が公表するプレスリリースや基準書を随時入手し、最新の基準の把握を行っております。また、IFRSに基づく適正な連結財務諸表等を作成するために、IFRSに準拠したグループ会計方針を作成し、それに基づいた会計処理を行っております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	IFRS移行日 (2020年4月1日)	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2021年12月31日)
資産				
流動資産				
現金及び現金同等物		563	1,666	1,454
営業債権及びその他の債権		400	1,086	1,010
棚卸資産		7	28	54
その他の金融資産	5	7	100	100
その他の流動資産		126	159	161
流動資産合計		1,104	3,041	2,780
非流動資産				
有形固定資産		2	104	108
のれん		—	1,666	1,666
無形資産		94	87	103
持分法で会計処理されている投資		10	11	11
その他の金融資産	5	343	402	420
繰延税金資産		18	157	129
使用権資産		—	1,173	1,024
その他の非流動資産		0	3	3
非流動資産合計		469	3,606	3,467
資産合計		1,574	6,647	6,248

(単位：百万円)

	注記	IFRS移行日 (2020年4月1日)	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2021年12月31日)
負債及び資本				
負債				
流動負債				
営業債務及びその他の債務		367	1,336	1,168
有利子負債	5	—	814	440
リース負債		—	100	87
未払法人所得税		1	16	2
その他の金融負債	5	—	57	2
その他の流動負債		641	726	443
流動負債合計		1,010	3,052	2,145
非流動負債				
有利子負債	5	485	319	841
リース負債		—	1,045	929
引当金		—	57	54
繰延税金負債		3	—	—
非流動負債合計		488	1,422	1,825
負債合計		1,498	4,474	3,970
資本				
資本金		100	273	410
資本剰余金		262	1,985	2,166
利益剰余金		△287	△86	△299
自己株式		△0	△0	△0
親会社の所有者に帰属する 持分合計		75	2,173	2,277
資本合計		75	2,173	2,277
負債及び資本合計		1,574	6,647	6,248

(2) 【要約四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
継続事業			
売上収益	10	3,214	4,652
売上原価		531	371
売上総利益		2,683	4,281
その他の収益		40	29
販売費及び一般管理費		2,569	4,473
その他の費用		9	5
営業利益 (△損失)		144	△169
金融収益		3	28
金融費用		21	40
持分法による投資利益		0	0
税引前四半期利益 (△損失)		126	△180
法人所得税費用		6	32
継続事業からの四半期利益 (△損失)		119	△213
非継続事業からの四半期利益		143	—
四半期利益 (△損失)		263	△213
四半期利益 (△損失) の帰属			
親会社の所有者		263	△213
非支配持分		—	—
四半期利益 (△損失)		263	△213
1株当たり四半期利益 (△損失) (円)			
継続事業		1.64	△2.38
非継続事業		1.97	—
基本的1株当たり四半期利益 (△損失)	11	3.61	△2.38
希薄化後1株当たり四半期利益 (△損失) (円)			
継続事業		1.64	△2.38
非継続事業		1.97	—
希薄化後1株当たり四半期利益 (△損失)	11	3.61	△2.38

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
継続事業			
売上収益		1,603	1,575
売上原価		204	85
売上総利益		1,398	1,490
その他の収益		3	15
販売費及び一般管理費		1,362	1,577
その他の費用		7	2
営業利益 (△損失)		32	△74
金融収益		0	18
金融費用		11	10
持分法による投資損益		0	0
税引前四半期利益 (△損失)		21	△66
法人所得税費用		5	9
継続事業からの四半期利益 (△損失)		15	△75
四半期利益 (△損失)		15	△75
四半期利益 (△損失) の帰属			
親会社の所有者		15	△75
非支配持分		—	—
四半期利益 (△損失)		15	△75
1株当たり四半期利益 (△損失) (円)			
継続事業		0.19	△0.83
非継続事業		—	—
基本的1株当たり四半期利益 (△損失)	11	0.19	△0.83
希薄化後1株当たり四半期利益 (△損失) (円)			
継続事業		0.19	△0.83
非継続事業		—	—
希薄化後1株当たり四半期利益	11	0.19	△0.83

(3) 【要約四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期利益 (△損失)		263	△213
四半期包括利益合計		<u>263</u>	<u>△213</u>
四半期包括利益合計の帰属			
親会社の所有者		263	△213
非支配持分		—	—
四半期包括利益合計		<u>263</u>	<u>△213</u>

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
四半期利益（△損失）		15	△75
四半期包括利益合計		15	△75
四半期包括利益合計の帰属			
親会社の所有者		15	△75
非支配持分		—	—
四半期包括利益合計		15	△75

(4) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分						資本 合計
	注記	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	合計	
2020年4月1日		100	262	△287	△0	75	75
四半期包括利益							
四半期利益		—	—	263	—	263	263
四半期包括利益合計		—	—	263	—	263	263
所有者との取引額等							
新株の発行（新株予約権の行使）		—	△0	—	—	△0	△0
新株予約権の発行		—	1	—	—	1	1
新株予約権の失効	6	—	△17	—	—	△17	△17
株式交換による変動	7	—	1,522	—	—	1,522	1,522
所有者との取引額等合計		—	1,505	—	—	1,505	1,505
2020年12月31日		100	1,768	△23	△0	1,844	1,844

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分						資本 合計
	注記	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	合計	
2021年4月1日		273	1,985	△86	△0	2,173	2,173
四半期包括利益							
四半期損失（△）		—	—	△213	—	△213	△213
四半期包括利益合計		—	—	△213	—	△213	△213
所有者との取引額等							
新株の発行（新株予約権の行使）		136	166	—	—	303	303
新株予約権の発行		—	14	—	—	14	14
自己株式の取得		—	—	—	△0	△0	△0
所有者との取引額等合計		136	180	—	△0	317	317
2021年12月31日		410	2,166	△299	△0	2,277	2,277

(5) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期利益 (△損失)		126	△180
非継続事業からの税引前四半期利益		143	—
減価償却費及び償却費		95	160
金融収益		△3	△28
金融費用		21	33
持分法による投資損益 (△は益)		△0	△0
営業債権及びその他の債権の増減 (△は増加)		150	75
営業債務及びその他の債務の増減 (△は減少)		△309	△168
棚卸資産の増減 (△は増加)		△14	△25
その他		△40	△269
小計		169	△403
利息の受取額		1	0
利息の支払額		△15	△34
法人所得税の支払額		△18	△33
法人所得税の還付額		88	9
営業活動によるキャッシュ・フロー		224	△461
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産及び無形資産の取得による支出		△14	△155
投資有価証券の売却による収入		214	—
子会社の支配獲得による収入		952	—
子会社の支配喪失による収入		114	—
敷金及び保証金の差入による支出		△24	—
敷金及び保証金の回収による収入		66	—
出資金の回収による収入		—	0
定期預金の預入による支出		△100	—
その他		△19	△26
投資活動によるキャッシュ・フロー		1,189	△182
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額 (△は減少)		83	△300
長期借入れによる収入		205	600
長期借入金の返済による支出		△57	△82
社債の買入及び償還による支出		△500	—
リース負債の返済による支出		△38	△76
株式の発行による収入		—	299
その他		1	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー		△306	431
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		1,107	△212
現金及び現金同等物の期首残高		563	1,666
現金及び現金同等物の四半期末残高		1,670	1,454

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

I N E S T株式会社(以下「当社」という。)は日本に所在する株式会社であり、東京証券取引所に株式を上場しております。登記上の本社の住所は東京都豊島区東池袋一丁目25番8号であります。当第3四半期連結会計期間(2021年10月1日から2021年12月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年12月31日まで)の要約四半期連結財務諸表は、当社及びその子会社(以下「当社グループ」という。)並びに関連会社に対する当社グループの持分から構成されております。

当社グループは、主に中小企業や個人消費者に対して、モバイルデバイスやウォーターサーバー等の各種商品の販売を行う事業を営んでおります。当社グループの事業内容及び主要な活動は、「注記8. 事業セグメント」に記載しております。

2. 要約四半期連結財務諸表作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨及び初度適用に関する事項

当社の要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、IAS第34号に準拠して作成されております。

当社グループは、2021年4月1日に開始する連結会計年度の第1四半期連結会計期間よりIFRSを初めて適用しており、本要約四半期連結財務諸表がIFRSに準拠して作成する最初の要約四半期連結財務諸表となります。IFRSへの移行日は2020年4月1日であります。従前の会計基準は日本基準であり、日本基準による直近の連結財務諸表に表示されている会計期間の末日は2021年3月31日であります。

また、当社グループが適用しているIFRS第1号「国際財務報告基準の初度適用」が与える影響については、「注記14. 初度適用」に記載しております。

(2) 測定の基礎

本要約四半期連結財務諸表は「注記3. 重要な会計方針」に基づいて作成されております。資産及び負債の残高は、公正価値で測定している金融商品などを除き、取得原価を基礎として計上しております。

(3) 機能通貨及び表示通貨

本要約四半期連結財務諸表は当社の機能通貨である円(百万円単位、単位未満切捨て)で表示しております。

(4) 未適用の公表済み基準書

連結財務諸表の承認日までに新設又は改訂が公表された基準書及び解釈指針のうち、重要な影響があるものはありません。

3. 重要な会計方針

当社グループが適用した重要な会計方針は、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2021年4月1日から2021年6月30日まで)に係る要約四半期連結財務諸表の注記に記載しております。

4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

IFRSに準拠した要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の金額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定を行うことが要求されております。実際の業績は、その性質上これらの見積りとは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直されます。会計上の見積りの見直しによる影響は、見積りを見直した会計期間及びそれ以降の将来の会計期間において認識されます。

要約四半期連結財務諸表で認識する金額に重要な影響を与える見積り及び仮定は、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2021年4月1日から2021年6月30日まで)に係る要約四半期連結財務諸表の注記に記載しております。

5. 金融商品

金融商品は、その公正価値の測定にあたって、その公正価値の測定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、公正価値ヒエラルキーの3つのレベルに分類しております。当該分類において、それぞれの公正価値のヒエラルキーは、以下のように定義しております。

レベル1：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により測定した公正価値

レベル2：レベル1以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを使用して測定した公正価値

レベル3：重要な観察可能でないインプットを使用して測定した公正価値

当社グループは、公正価値の測定に使用される公正価値の階層のレベルを、公正価値の測定の重要なインプットの最も低いレベルによって決定しております。

（1）経常的に公正価値で測定する金融商品

① 公正価値のヒエラルキー

公正価値の階層ごとに分類された、金融商品は以下のとおりであります。

IFRS移行日(2020年4月1日)

		(単位：百万円)			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産					
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産					
新株予約権付社債		—	—	212	212
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産					
株式		—	—	11	11
	合計	—	—	224	224

前連結会計年度(2021年3月31日)

		(単位：百万円)			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産					
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産					
株式		—	—	9	9
	合計	—	—	9	9
金融負債					
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債					
デリバティブ		—	—	57	57
	合計	—	—	57	57

当第3四半期連結会計期間(2021年12月31日)

		(単位：百万円)			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産					
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産					
株式		—	—	9	9
	合計	—	—	9	9
金融負債					
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債					
デリバティブ		—	—	2	2
	合計	—	—	2	2

公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、振替えを生じさせた事象または状況の変化が生じた日に認識しております。

レベル間の重要な振替が行われた金融商品はありません。

当第3四半期連結累計期間において、経常的に公正価値で測定するレベル3の資産および負債について、公正価値の測定が純損益またはその他の包括利益に与える影響に重要なものではありません。

② 公正価値の測定方法

株式

非上場株式については、純資産価値に基づく評価技法を用いて算定しており、公正価値ヒエラルキーレベル3に区分しております。

新株予約権付社債

非上場会社の発行する転換社債型新株予約権付社債であり、主として割引将来キャッシュ・フローに基づく評価技法等により測定しております。

デリバティブ

新株予約権の公正価値については、市場価格、ヒストリカル・ボラティリティ等を考慮したモンテカルロ・シミュレーション等を用いて算定しており、公正価値ヒエラルキーレベル3に区分しております。

③ レベル3に分類される資産に関する定量的情報

当社グループにおいて、レベル3に分類されている金融商品は、主に非上場株式により構成されています。非上場株式の公正価値の測定は、対象となる金融商品の性質、特徴及びリスクを最も適切に反映できる評価技法及びインプットを用いて、入手可能なデータにより公正価値を測定しています。その結果は適切な権限者がレビュー及び承認しています。

なお、レベル3に分類した金融商品について、観察可能でないインプットを合理的に考え得る代替的な仮定に変更した場合に重要な公正価値の増減は見込まれていません。

(2) 償却原価で測定する金融商品

① 公正価値

償却原価で測定する金融資産及び金融負債の公正価値は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	IFRS移行日 (2020年4月1日)		前連結会計年度末 (2021年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
金融資産						
その他の金融資産						
敷金及び保証金	118	118	393	383	411	403
金融負債						
有利子負債						
長期借入金 (1年内返済予定含む)	—	—	254	249	971	961
長期未払金 (1年内返済予定含む)	—	—	178	177	110	108

(注) 短期の金融資産、短期の金融負債は、公正価値と帳簿価額とが近似しているため、上記には含めておりません。

② 公正価値の測定方法

敷金及び保証金

敷金及び保証金の公正価値については、将来キャッシュ・フローを期日までの期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により測定しており、レベル2に分類しております。

借入金及び未払金

借入金及び未払金については、元利金の合計を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引く方法により算定しており、レベル3に分類しております。

6. 社債

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

償還した社債(償還日 2020年5月15日)は以下のとおりです。

会社名	銘柄	発行年月日	発行価額 (百万円)	利率(%)	償還期限
I N E S T 株式会社	第1回無担保転換社債型 新株予約権付社債	2018年12月26日	500	2.1	2023年12月25日

(注) 当社は、2020年4月24日開催の取締役会において、2018年12月26日に発行したI N E S T株式会社第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の未償還残高の全額を繰上償還することについて決議し、2020年5月15日に繰上償還しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

該当事項はありません。

7. 企業結合等

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

(支配の喪失)

1. 支配喪失の概要

(1) 譲渡先企業の名称

株式会社E P A R K グルメ

(2) 支配喪失した事業の内容

子会社の名称	株式会社E P A R K ライフスタイル
事業の内容	旅行代理店に対する予約システム等のソリューションサービス業

子会社の名称	株式会社E P A R K モール
事業の内容	商業施設や大手飲食チェーンに対する予約システム等のソリューションサービス業

(3) 支配喪失の主な理由

当社は、従来からの事業領域に加え、新たな収益基盤構築のためシステム事業において予約ソリューションサービスを提供していましたが、当社グループの経営状況に鑑み、株式会社E P A R K ライフスタイル及び株式会社E P A R K モールの全株式及び債権を譲渡すること並びに当該サービスの提供を終了することを決議いたしました。

(4) 支配喪失日

2020年5月1日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 支配喪失に伴う損益

株式会社E P A R K ライフスタイル	その他の費用(子会社株式売却損)	0 百万円
株式会社E P A R K モール	その他の収益(子会社株式売却益)	19 百万円

(2) 支配の喪失を伴う資産及び負債

株式会社E P A R Kライフスタイル

流動資産	28	百万円
非流動資産	0	百万円
資産合計	28	百万円
流動負債	10	百万円
負債合計	10	百万円

株式会社E P A R Kモール

流動資産	64	百万円
非流動資産	88	百万円
資産合計	153	百万円
流動負債	72	百万円
負債合計	72	百万円

(取得による企業結合)

当社は、2020年4月24日開催の取締役会において、株式会社アイ・ステーション（以下「アイ・ステーション」という。）との間で、当社を株式交換完全親会社、アイ・ステーションを株式交換完全子会社とする株式交換（以下「本株式交換」という。）を実施することについて決議し、同日付で株式交換契約を締結いたしました。本株式交換は、2020年8月1日を効力発生日として実施され、アイ・ステーションは当社の完全子会社となりました。当該取引は、当社と関係会社である株式会社光通信との関連当事者取引に該当いたします。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称および事業の内容

被取得企業の名称	株式会社アイ・ステーション
事業の内容	法人向け携帯電話の販売 通信回線サービス及び電力小売供給契約の媒介

②企業結合を行った主な理由

アイ・ステーションは、携帯電話やスマートフォンをはじめとした多数の商品の営業活動を主に中小法人向けに展開しており、全国的な営業基盤を有しております。

当社グループと共通するビジネスモデルで収益を確保してきた企業を株式交換で取得することにより、両社の販売網や販売チャネル、多数の顧客基盤と商品等が結合し、収益機会が拡充され、当社の企業価値及び株主価値の向上につながるものであると判断したため、本株式交換を実施することを決議いたしました。

③企業結合日

2020年8月1日

④企業結合の法的形式

当社を株式交換完全親会社とし、アイ・ステーションを株式交換完全子会社とする株式交換

⑤結合後企業の名称

変更はありません。

⑥取得した議決権比率

100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

株式交換により、当社が同社の議決権の100%を取得するためであります。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	当社の普通株式の時価	46 百万円
	当社のA種優先株式の時価	1,476 百万円
取得対価		1,522 百万円

(3) 株式の種類別の交換比率及びその算定方法並びに交付する株式数

① 株式の種類別の交換比率

会社名	当社 (株式交換完全親会社)	アイ・ステーション (株式交換完全子会社)
本株式交換に係る 普通株式の交換比率	1 (普通株式)	375 (普通株式)
本株式交換に係る 種類株式の交換比率	1 (A種優先株式)	375 (B種優先株式)

(注) 株式の割当比率

アイ・ステーションの普通株式1株に対して、当社の普通株式375株を割当て交付いたしました。また、アイ・ステーションのB種優先株式1株に対して、当社のA種優先株式375株を割当て交付いたしました。

② 株式交換比率の算定方法

本株式交換における交換比率の算定について、公正性・妥当性を確保するため個別に両社から独立した第三者算定機関に株式交換比率の算定を依頼し、提出された報告書に基づき当事者間で協議の上、算定しております。

③ 交付する株式数

普通株式 : 712,500株
A種優先株式 : 22,710,000株

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 4百万円

(5) 発生したのれんの金額、発生要因

① 発生したのれんの金額

1,109百万円

② 発生原因

のれんの内容は、主に、期待される将来の超過収益力及び既存事業とのシナジー効果の合理的な見積りにより発生したものであります。

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び負債の額並びにその主な内訳

現金及び現金同等物	789 百万円
営業債権及びその他の債権※1	559 百万円
使用権資産	586 百万円
その他の金融資産	236 百万円
その他	294 百万円
資産合計	2,466 百万円
営業債務及びその他の債務	438 百万円
有利子負債(流動及び非流動)	735 百万円
リース負債(流動及び非流動)	574 百万円
その他	306 百万円
負債合計※2	2,054 百万円

※1 取得した営業債権及びその他の債権の公正価値は559百万円です。

なお、契約上の未収金額の総額は562百万円であり、回収が見込まれない契約上のキャッシュ・フローの見積りは3百万円です。

※2 偶発負債はありません。

(7) 当社グループの業績に与える影響

前連結会計年度に含まれる取得日以降のアイ・ステーションから生じた売上収益及び当期利益が、それぞれ1,957百万円及び60百万円含まれております。

(プロフォーマ情報)

仮に取得日が連結会計年度の期首であったと仮定した場合、当社グループ要約四半期連結損益計算書は825百万円の売上収益と13百万円の当期損失を含むことになっていたと考えられます。

なお、当該プロフォーマ情報は四半期レビューを受けておりません。

また、当該情報は必ずしも将来起こりうるべき事象を示唆するものではなく、実際に出資が期首時点に行われた場合の当社グループの経営成績を示すものではありません。

(取得による企業結合)

当社は、2020年4月24日開催の取締役会において、株式会社P a t c h（現社名 R e n x a株式会社。以下、「R e n x a」という。）の全株式を取得し子会社化することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2020年8月1日付で全株式を取得し子会社化いたしました。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称、事業の内容

被取得企業の名称	株式会社P a t c h（現社名 R e n x a株式会社）
事業の内容	ナチュラルミネラルウォーターの取次販売事業 新電力小売事業

②企業結合を行った主な理由

R e n x aは、訪問販売やテレマーケティングを通じてウォーターサーバーや新電力の営業活動を主に個人消費者向けに展開しており、当社グループと共通するビジネスモデルで収益を確保してきた企業であることに加え、当社グループにはない販売網や営業力と多彩な販売チャネル、多数の顧客基盤と商品を有しております。R e n x aを取得することで収益機会が拡充され、当社の企業価値及び株主価値の向上につながると判断したため、子会社化することを決議いたしました。

③企業結合日

2020年8月1日

④企業結合の法的形式

株式取得

⑤結合後企業の名称

変更はありません。

⑥取得した議決権比率

100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として全株式を取得したためであります。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金（未払金を含む）	500 百万円
取得対価		500 百万円

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 1百万円

(4) 発生したのれんの金額、発生要因

①発生したのれん金額

556百万円

②発生原因

のれんの内容は、主に、期待される将来の超過収益力及び既存事業とのシナジー効果の合理的な見積りにより発生したものであります。

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び負債の額並びにその主な内訳

現金及び現金同等物	162 百万円
営業債権及びその他の債権※1	122 百万円
その他	29 百万円
資産合計	314 百万円
営業債務及びその他の債務	291 百万円
有利子負債(流動)	44 百万円
その他	33 百万円
負債合計※2	370 百万円

※1 取得した営業債権及びその他の債権の公正価値は122百万円です。

なお、契約上の未収金額の総額は122百万円であり、回収が見込まれない契約上のキャッシュ・フローはありません。

※2 偶発負債はありません。

(6) 当社グループの業績に与える影響

前連結会計年度に含まれる取得日以降のR e n x a から生じた売上収益及び当期利益が、それぞれ1,619百万円及び38百万円含まれております。

(プロフォーマ情報)

仮に取得日が連結会計年度の期首であったと仮定した場合、当社グループ要約四半期連結損益計算書は595百万円の売上収益と28百万円の当期損失を含むことになっていたと考えられます。

なお、当該プロフォーマ情報は四半期レビューを受けておりません。

また、当該情報は必ずしも将来起こりうるべき事象を示唆するものではなく、実際に出資が期首時点に行われた場合の当社グループの経営成績を示すものではありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

該当事項はありません。

8. 事業セグメント

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、法人向け事業及び個人向け事業を営んでおり、その事業区分ごとに当社及び当社の連結子会社が単一もしくは複数の事業に従事する事業活動を展開しております。

なお、前第2四半期連結会計期間より、新たな経営体制への移行に伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「システム事業」、「直販事業」及び「広告ソリューション事業」から「法人向け事業」及び「個人向け事業」に変更しており、「法人向け事業」は、主に中小法人に対して、モバイルデバイスや新電力、OA機器等の顧客のニーズにあった各種商品を取次販売しております。「個人向け事業」は、主に個人に対して、ウォーターサーバーやモバイルデバイス、インターネット回線等の顧客のニーズにあった各種商品を取次販売しております。

当社は、広告ソリューション事業のサービスの終了に伴い、同事業を非継続事業に分類しており、前第3四半期連結累計期間のセグメント収益及び業績は、非継続事業を除いた継続事業の金額を表示しております。非継続事業の詳細については、「注記9. 非継続事業」に記載しております。

(2) 報告セグメントごとの売上収益、利益又は損失、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「注記3. 重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	要約四半期連結 財務諸表計上額
	法人向け事業	個人向け事業	計		
売上収益					
外部顧客への売上収益	1,673	1,541	3,214	—	3,214
セグメント間の 内部売上収益及び振替高	0	4	5	△5	—
計	1,674	1,545	3,219	△5	3,214
セグメント利益	171	130	302	△157	144
金融収益					3
金融費用					21
持分法による投資損益					0
税引前四半期利益					126

(注) セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去及び各セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	要約四半期連結 財務諸表計上額
	法人向け事業	個人向け事業	計		
売上収益					
外部顧客への売上収益	2,328	2,324	4,652	—	4,652
セグメント間の 内部売上収益及び振替高	5	26	32	△32	—
計	2,334	2,350	4,685	△32	4,652
セグメント利益(△損失)	246	67	313	△482	△169
金融収益					28
金融費用					40
持分法による投資損益					0
税引前四半期損失(△)					△180

(注) セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去及び各セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

前第3四半期連結会計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	要約四半期連結 財務諸表計上額
	法人向け事業	個人向け事業	計		
売上収益					
外部顧客への売上収益	851	751	1,603	—	1,603
セグメント間の 内部売上収益及び振替高	0	4	4	△4	—
計	851	756	1,607	△4	1,603
セグメント利益	51	12	64	△31	32
金融収益					0
金融費用					11
持分法による投資損益					0
税引前四半期利益					21

(注) セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去及び各セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

当第3四半期連結会計期間(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	要約四半期連結 財務諸表計上額
	法人向け事業	個人向け事業	計		
売上収益					
外部顧客への売上収益	843	731	1,575	—	1,575
セグメント間の 内部売上収益及び振替高	4	7	12	△12	—
計	848	738	1,587	△12	1,575
セグメント利益(△損失)	98	12	110	△185	△74
金融収益					18
金融費用					10
持分法による投資損益					0
税引前四半期損失(△)					△66

(注) セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去及び各セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

9. 非継続事業

(1) 非継続事業の概要

当社は、主に飲食店等の事業者を対象に、広告メディア等のソリューションサービスを代理店として提供する事業を運営しておりましたが、当社グループの経営状況に鑑み、2020年4月30日に当該サービスの提供を終了いたしました。

(2) 非継続事業の損益

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
非継続事業の損益		
収益	157	—
費用	△14	—
非継続事業からの税引前四半期利益	143	—
法人所得税費用	—	—
非継続事業からの四半期利益	143	—

(3) 非継続事業のキャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	201	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—
合計	201	—

10. 売上収益

(収益の分解)

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

(単位：百万円)

		報告セグメント		
		法人向け事業	個人向け事業	計
主要なサービスライン	通信インフラサービス	468	802	1,271
	ライフラインサービス	375	625	1,001
	オフィスソリューションサービス	488	0	488
	店舗ソリューションサービス	55	—	55
	ビジネス・プロセス・アウトソーシングサービス	217	102	319
	その他	76	1	78
合計		1,681	1,532	3,214
顧客との契約から認識した収益		1,636	1,532	3,168
その他の源泉から認識した収益		45	—	45

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:百万円)

		報告セグメント		
		法人向け事業	個人向け事業	計
主要なサービスライン	通信インフラサービス	690	671	1,362
	ライフラインサービス	353	1,440	1,793
	オフィスソリューションサービス	517	0	517
	店舗ソリューションサービス	210	—	210
	ビジネス・プロセス・アウトソーシングサービス	499	164	664
	その他	56	47	104
合計		2,328	2,324	4,652
顧客との契約から認識した収益		2,271	2,324	4,595
その他の源泉から認識した収益		57	—	57

(注) その他の源泉から認識した収益には、IFRS第16号に基づくリース料収入が含まれています。

① 通信インフラサービス

通信インフラサービスにおいては、テレマーケティングや訪問販売などのチャネルを通じて、モバイルデバイスや通信回線サービス等の販売を主要業務としております。このサービスは、当社グループと顧客との契約に基づき、サービス内容や当事者間の権利と義務が定められ、サービス内容等の区分可能性や顧客への移転パターンに基づき、主な履行義務を以下の通り識別し、収益を認識しております。

当社グループは、サービス契約者のニーズに応じて契約を交わし、当該財又はサービスを提供した時点で、履行義務を充足されるものであります。当該金額は履行義務の充足時点から概ね1～2か月以内に支払を受けており、これらの契約についてはIFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」(以下、「IFRS第15号」という。)で規定される便法を適用して金融要素にかかる調整は行っておりません。

② ライフラインサービス

ライフラインサービスにおいては、テレマーケティングや訪問販売などのチャネルを通じて、ウォーターサーバーや新電力等の販売を主要業務としております。当該サービスは、当社グループと顧客との契約に基づき、サービス内容や当事者間の権利と義務が定められ、サービス内容等の区分可能性や顧客への移転パターンに基づき、主な履行義務を以下の通り識別し、収益を認識しております。

当社グループは、サービス契約者のニーズに応じてサービス契約を交わし、そのサービスを提供した時点で、充足されるものであります。当該金額は履行義務の充足時点から概ね1～2か月以内に支払を受けており、これらの契約についてはIFRS第15号で規定される便法を適用して金融要素にかかる調整は行っておりません。

売上収益は契約において約束された対価で測定され、顧客への返金が見込まれる金額は返金負債として認識しております。

③ オフィスソリューションサービス

オフィスソリューションサービスにおいては、テレマーケティングや訪問販売などのチャネルを通じて、OA機器や照明、蓄電池等の販売を主要業務としております。当該サービスは、当社グループと顧客との契約に基づき、サービス内容や当事者間の権利と義務が定められ、サービス内容等の区分可能性や顧客への移転パターンに基づき、主な履行義務を以下の通り識別し、収益を認識しております。

当社グループは、サービス契約者のニーズに応じてサービス契約を交わし、その財又はサービスを提供した時点で、充足されるものであります。当該金額は履行義務の充足時点から概ね1～2か月以内に支払を受けており、これらの契約についてはIFRS第15号で規定される便法を適用して金融要素にかかる調整は行っておりません。

④ 店舗ソリューションサービス

店舗ソリューションサービスにおいては、テレマーケティングや訪問販売などのチャネルを通じて、LED、蓄電池等の販売を主要業務としております。当該サービスは、当社グループと顧客との契約に基づき、サービス内容や当事者間の権利と義務が定められ、サービス内容等の区分可能性や顧客への移転パターンに基づき、主な履行義務を以下の通り識別し、収益を認識しております。

当社グループは、サービス契約者のニーズに応じてサービス契約を交わし、その財又はサービスを提供した時点で、充足されるものであります。当該金額は履行義務の充足時点から概ね1～2か月以内に支払を受けており、これらの契約についてはIFRS第15号で規定される便法を適用して金融要素にかかる調整は行っておりません。

⑤ ビジネス・プロセス・アウトソーシングサービス

ビジネス・プロセス・アウトソーシングサービスにおいては、顧客企業の営業・マーケティング活動に関連する業務の受託により、当社の人材による電話コンタクト、直接訪問、Webコンタクト等のチャネルを通じて、顧客企業に代わってエンドユーザーに対し商品・サービスのセールス、訪問のためのアポイントの獲得等を行っており、そのサービスが提供されるにつれて収益を認識しております。

当社グループは、サービス契約者のニーズに応じてサービス契約を交わし、そのサービスを提供するにつれて、履行義務が充足されるものであります。当該金額は履行義務の充足時点から概ね1～2か月以内に支払を受けており、これらの契約についてはIFRS第15号で規定される便法を適用して金融要素にかかる調整は行っておりません。

11. 1株当たり四半期利益

基本的1株当たり四半期利益及び算定上の基礎、希薄化後1株当たり四半期利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
(1) 基本的1株当たり四半期利益 (△は損失)		
継続事業	1円64銭	△2円38銭
非継続事業	1円97銭	—
(算定上の基礎)		
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (△は損失) (百万円)	263	△213
親会社の普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
基本的1株当たり四半期利益の算定に用いる金額 (△ は損失) (百万円)	263	△213
継続事業 (△は損失)	119	△213
非継続事業	143	—
発行済普通株式の加重平均株式数(千株)	72,985	89,553
(2) 希薄化後1株当たり四半期利益 (△は損失)		
継続事業	1円64銭	△2円38銭
非継続事業	1円97銭	—
(算定上の基礎)		
基本的1株当たり四半期利益の算定に用いる金額 (△は損失) (百万円)	263	△213
子会社及び関連会社の潜在株式に係る 利益調整額 (百万円)		
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いる 金額 (△は損失) (百万円)	263	△213
継続事業 (△は損失)	119	△213
非継続事業	143	—
発行済普通株式の加重平均株式数(千株)	72,985	89,553
新株予約権による普通株式増加数(千株)	—	—
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いる 普通株式の加重平均株式数(千株)	72,985	89,553
逆希薄化効果を有するため、希薄化後1株当たり 四半期損失の算定に含めなかった金融商品の概要	—	新株予約権2種類 (新株予約権の数 66,999個)

	前第3四半期連結会計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
(1) 基本的1株当たり四半期利益 (△は損失)		
継続事業	0円19銭	△0円83銭
非継続事業	—	—
(算定上の基礎)		
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (△は損失) (百万円)	15	△75
親会社の普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
基本的1株当たり四半期利益の算定に用いる金額 (△は損失) (百万円)	15	△75
継続事業 (△は損失)	15	△75
非継続事業	—	—
発行済普通株式の加重平均株式数(千株)	83,376	90,927
(2) 希薄化後1株当たり四半期利益 (△は損失)		
継続事業	0円19銭	△0円83銭
非継続事業	—	—
(算定上の基礎)		
基本的1株当たり四半期利益の算定に用いる金額 (△は損失) (百万円)	15	△75
子会社及び関連会社の潜在株式に係る利益調整額 (百万円)		
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いる金額 (△は損失) (百万円)	15	△75
継続事業 (△は損失)	15	△75
非継続事業	—	—
発行済普通株式の加重平均株式数(千株)	83,376	90,927
新株予約権による普通株式増加数(千株)	—	—
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に用いる普通株式の加重平均株式数(千株)	83,376	90,927
逆希薄化効果を有するため、希薄化後1株当たり四半期損失の算定に含めなかった金融商品の概要	—	新株予約権2種類 (新株予約権の数 66,999個)

12. 後発事象

（行使価額修正条項付第2回新株予約権（行使要請条項・停止要請条項付）の取得及び消却）

当社は、2021年12月27日開催の取締役会において、2021年2月5日に発行した行使価額修正条項付第2回新株予約権（行使要請条項・停止要請条項付）（以下、「本新株予約権」といいます。）について、下記のとおり取得日において残存する本新株予約権の全部を取得するとともに、直ちに消却することを決議し、2022年1月11日に取得し、消却いたしました。

1. 行使価額修正条項付第2回新株予約権（行使要請条項・停止要請条項付）の取得及び消却

（1）取得及び消却した新株予約権の名称	INEST株式会社第2回新株予約権
（2）発行した新株予約権の数	110,000個
（3）取得及び消却した新株予約権の数	34,491個
（4）新株予約権の取得日及び消却日	2022年1月11日
（5）新株予約権の取得価額	総額2,310,897円（新株予約権1個当たり67円）
（6）消却後に残存する新株予約権の数	0個

2. 本新株予約権の取得及び消却の理由

新株予約権は、当社グループの中長期にわたる安定的な経営や資金調達余力の拡大、既存事業の強化を図ることを目的に実施したファイナンスであります。

本新株予約権は現在までに75,509個（7,550,900株）が行使され、発行諸費用を除き616百万円を調達いたしました。

しかしながら、現在、当社株価は本新株予約権の下限行使価額（1株当たり77円）を下回る状態となっており、その残数の行使は進んでおりません。当社において、本新株予約権発行以降の株式市場の動向、当社の資本政策及び今後の市場環境等を総合的に判断した結果、残存する本新株予約権の全部を取得し消却することといたしました。

（資本金の額の減少および剰余金の処分）

当社は、2022年1月13日開催の取締役会において、2022年2月25日開催予定の臨時株主総会に、下記のとおり資本金の額の減少および剰余金の処分について付議することを決議いたしました。

1. 資本金の額の減少および剰余金の処分の目的

現在生じている繰越利益剰余金の欠損額を補填し財務体質の健全化を図るとともに、今後の資本政策の柔軟性及び機動性を確保することを目的として、会社法第447条第1項の規定に基づく資本金の額の減少並びに会社法第452条の規定に基づく剰余金の処分を行うことといたしました。

2. 資本金の額の減少の内容

（1）減少する資本金の額

資本金の額410,837,252円を310,837,252円減少し、100,000,000円といたします。

資本金の減少額310,837,252円は、全額その他資本剰余金に振り替える予定であります。

（2）資本金の額の減少の方法

払戻しを行わない無償減資とし、発行済株式総数の変更は行いません。

3. 剰余金の処分の内容

（1）減少する剰余金の項目およびその金額

その他資本剰余金 238,273,645 円

（2）増加する剰余金の項目およびその金額

繰越利益剰余金 238,273,645 円

（3）剰余金処分の方法

会社法第452条の規定に基づき、上記2.の資本金の額の減少の効力発生を条件として、その他資本剰余金310,837,252 円のうち 238,273,645 円を減少して、繰越利益剰余金に振り替えます。

4. 資本金の額の減少および剰余金の処分の日程

- | | |
|------------------|-----------------|
| (1) 取締役会決議日 | 2022年1月13日 |
| (2) 株主総会決議日 | 2022年2月25日 (予定) |
| (3) 債権者異議申述催告公告日 | 2022年2月25日 (予定) |
| (4) 債権者異議申述最終期日 | 2022年3月25日 (予定) |
| (5) 効力発生日 | 2022年3月30日 (予定) |

13. 追加情報

該当事項ありません。

14. 初度適用

当社グループは、第1四半期連結会計期間からIFRSに準拠した要約四半期連結財務諸表を開示しております。日本基準に準拠して作成された直近の連結財務諸表は2021年3月31日に終了する連結会計年度に関するものであり、IFRSへの移行日は2020年4月1日です。

(1) IFRS第1号の免除規定

IFRSは、IFRSを初めて適用する会社に対して、原則としてIFRSで要求される基準を遡及して適用することを求めています。ただし、IFRS第1号は、一部については例外的に遡及適用が禁止され、IFRS移行日から将来に向かって適用されます。当該例外規定のうち当社グループに該当する項目は以下のとおりであります。

会計上の見積り

IFRSによる連結財務諸表の作成において行った会計上の見積りについては、日本基準による連結財務諸表の作成時点における見積りと首尾一貫したものとするため、その後に入手した新たな情報に基づく見積りの修正を反映しておりません。

また、IFRS第1号では、IFRSで要求される基準の一部について任意に免除規定を適用できることを定めております。当社グループが適用した主な免除規定の内容は以下のとおりであります。

① 企業結合

IFRS移行日より前に行われた企業結合については、IFRS第3号「企業結合」を適用しておりません。

② リース

IFRS第1号では、初度適用企業は移行日に存在する契約にリースが含まれているかどうかを、同日時点で存在する事実及び状況に基づいて判定することが認められております。また、リース期間が移行日から12ヶ月以内に終了するリース及び原資産が少額であるリースについて、費用として認識することが認められております。

当社グループは、当該免除規定を適用し、リースの認識・測定を行っております。

当社グループは、IFRSによる要約四半期連結財務諸表を作成するにあたり、既の開示された日本基準による連結財務諸表及び四半期連結財務諸表に対して必要な調整を加えております。

当第3四半期連結会計期間においてIFRS第1号により開示が求められる調整表は、以下のとおりであります。

調整表上の「表示組替」には利益剰余金及び包括利益に影響を及ぼさない項目を、「認識及び測定の差異」には利益剰余金及び包括利益に影響を及ぼす項目を含めて表示しております。

(2) 資本に対する調整

IFRS移行日(2020年4月1日)

日本基準表示科目	日本基準 百万円	表示組替 百万円	認識及び 測定の差異 百万円	IFRS 百万円	注記	IFRS表示科目
資産の部						資産
流動資産						流動資産
現金及び預金	563	—	—	563		現金及び現金同等物
売掛金	333	66	—	400	b	営業債権及びその他の債権
商品	7	—	—	7		棚卸資産
未収入金	155	△155	—	—	b	
	—	7	—	7		その他の金融資産
その他	44	81	—	126		その他の流動資産
貸倒引当金	△0	0	—	—	b	
流動資産合計	1,104	—	—	1,104		流動資産合計
固定資産						非流動資産
有形固定資産	—	2	—	2	h	有形固定資産
建物	1	△1	—	—		
その他	0	△0	—	—		
無形固定資産	—	96	△1	94	h	無形資産
ソフトウエア	94	△94	—	—		
その他	1	△1	—	—		
投資その他の資産						
投資有価証券	426	△426	—	—	a	
敷金及び保証金	118	△118	—	—	h	
	—	10	—	10	a	持分法で会計処理されている投資
	—	347	△4	343	A a, h	その他の金融資産
破産更生債権等	79	△79	—	—		
繰延税金資産	16	—	1	18		繰延税金資産
	—	0	—	0	h	その他の非流動資産
貸倒引当金	△266	266	—	—	h	
固定資産合計	473	—	△4	469		非流動資産合計
資産合計	1,578	—	△4	1,574		資産合計

日本基準表示科目	日本基準 百万円	表示組替 百万円	認識及び 測定の違い 百万円	IFRS 百万円	注記	IFRS表示科目
負債の部						負債及び資本
流動負債						負債
買掛金	88	276	2	367	c	流動負債 営業債務及びその他の債務
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	500	—	△500	—	d	有利子負債
未払金	276	△276	—	—	c	
未払法人税等	3	—	△2	1		未払法人所得税
前受金	509	△509	—	—		
賞与引当金	18	△18	—	—		
役員賞与引当金	0	△0	—	—		
その他	57	527	56	641	D, c	その他の流動負債
流動負債合計	1,453	—	△444	1,010		流動負債合計
固定負債						非流動負債
	—	—	485	485	d	有利子負債
	—	—	3	3		繰延税金負債
	—	—	488	488		非流動負債合計
負債合計	1,453	—	44	1,498		負債合計
純資産の部						資本
資本金	100	—	—	100		資本金
資本剰余金	247	—	14	262		資本剰余金
利益剰余金	△223	—	△63	△287	A, D	利益剰余金
自己株式	△0	—	—	△0		自己株式
	124	—	△49	75		親会社の所有者に帰属する持分合計
純資産合計	124	—	△49	75		資本合計
負債純資産合計	1,578	—	△4	1,574		負債及び資本合計

前第3四半期連結会計期間(2020年12月31日)

日本基準表示科目	日本基準 百万円	表示組替 百万円	認識及び 測定の違い 百万円	IFRS 百万円	注記	IFRS表示科目
資産の部						資産
流動資産						流動資産
現金及び預金	1,770	△100	—	1,670	i	現金及び現金同等物
売掛金	766	90	2	859	b	営業債権及びその他の債権
商品	42	△19	—	22		棚卸資産
その他	—	100	—	100	i	その他の金融資産
貸倒引当金	△6	6	—	—	b	その他の流動資産
流動資産合計	2,763	—	△6	2,757		流動資産合計
固定資産						非流動資産
有形固定資産	77	—	—	77	h	有形固定資産
無形固定資産						
のれん	1,576	—	90	1,666	B, E	のれん
その他	104	—	△1	102		無形資産
投資その他の資産						
投資有価証券	26	△26	—	—	a	
	—	11	—	11	a	持分法で会計処理されている投資
	—	354	11	366	A, a, h	その他の金融資産
	—	49	24	74		繰延税金資産
	—	—	867	867	C	使用権資産
その他	398	△395	—	3	h	その他の非流動資産
貸倒引当金	△6	6	—	—	h	
固定資産合計	2,175	△0	992	3,168		非流動資産合計
資産合計	4,939	△0	986	5,925		資産合計

日本基準表示科目	日本基準 百万円	表示組替 百万円	認識及び 測定の違い 百万円	IFRS 百万円	注記	IFRS表示科目
負債の部						負債及び資本
流動負債						負債
買掛金	188	846	20	1,055	c	流動負債 営業債務及びその他の債務
短期借入金	700	△700	—	—	d	
1年内返済予定の長期借入金	73	△73	—	—	d	
未払金	822	△822	—	—	c	
未払法人税等	6	—	△2	3		未払法人所得税
前受金	462	△462	—	—		
解約調整引当金	86	△86	—	—		
賞与引当金	39	△39	—	—		
	—	846	—	846	d	有利子負債
	—	1	77	78	C	リース負債
その他	117	491	80	689	D, c	その他の流動負債
流動負債合計	2,498	—	175	2,673		流動負債合計
固定負債						非流動負債
長期借入金	213	383	—	596	d	有利子負債
	—	4	758	763	C	リース負債
	—	—	47	47		引当金
その他	388	△388	—	—	h	その他の非流動負債
	—	△0	0	—		繰延税金負債
固定負債合計	601	△0	805	1,407		非流動負債合計
負債合計	3,100	△0	980	4,081		負債合計
純資産の部						資本
資本金	100	—	—	100		資本金
資本剰余金	1,770	1	△3	1,768	g	資本剰余金
利益剰余金	△32	—	8	△23	A, B C, D E, F	利益剰余金
自己株式	△0	—	—	△0		自己株式
新株予約権	1	△1	—	—	F, g	
	1,838	—	5	1,844		親会社の所有者に帰属する持分合計
純資産合計	1,838	—	5	1,844		資本合計
負債純資産合計	4,939	△0	986	5,925		負債及び資本合計

前連結会計年度(2021年3月31日)

日本基準表示科目	日本基準	表示組替	認識及び 測定の違い	IFRS	注記	IFRS表示科目
	百万円	百万円	百万円	百万円		
資産の部						資産
流動資産						流動資産
現金及び預金	1,766	△100	—	1,666	i	現金及び現金同等物
売掛金	1,022	56	6	1,086	b	営業債権及びその他の債権
商品	47	△19	—	28		棚卸資産
	—	100	—	100	i	その他の金融資産
その他	209	△42	△7	159	b	その他の流動資産
貸倒引当金	△4	4	—	—	b	
流動資産合計	3,042	—	△1	3,041		流動資産合計
固定資産						非流動資産
有形固定資産	—	104	—	104	h	有形固定資産
建物	67	△67	—	—		
その他	36	△36	—	—		
	—	—	1,173	1,173	C	使用権資産
無形固定資産						
のれん	1,534	—	131	1,666	B, E	のれん
その他	89	—	△1	87		無形資産
投資その他の資産						
投資有価証券	20	△20	—	—	a	
敷金及び保証金	377	△377	—	—	h	
	—	11	—	11	a	持分法で会計処理されている投資
	—	386	16	402	A, h	その他の金融資産
繰延税金資産	119	△0	37	157		繰延税金資産
その他	11	△8	—	3	h	その他の非流動資産
貸倒引当金	△8	8	—	—	h	
固定資産合計	2,248	△0	1,358	3,606		非流動資産合計
資産合計	5,290	△0	1,357	6,647		資産合計

日本基準表示科目	日本基準 百万円	表示組替 百万円	認識及び 測定の違い 百万円	IFRS 百万円	注記	IFRS表示科目
負債の部						負債及び資本
流動負債						負債 流動負債
買掛金	246	1,052	37	1,336	c	営業債務及びその他の債務
短期借入金	700	△700	—	—	d	
1年内返済予定の 長期借入金	45	△45	—	—	d	
	—	814	—	814	d	有利子負債
	—	0	99	100	C	リース負債
	—	—	57	57	F, g	その他の金融負債
未払金	964	△964	—	—	c	
未払法人税等	31	△11	△3	16		未払法人所得税
前受金	416	△416	—	—		
賞与引当金	80	△80	—	—		
役員賞与引当金	15	△15	—	—		
解約調整引当金	138	△138	—	—	c	
その他	148	504	73	726	D, c	その他の流動負債
流動負債合計	2,786	—	265	3,052		流動負債合計
固定負債						非流動負債
長期借入金	208	110	—	319	d	有利子負債
	—	5	1,039	1,045	C	リース負債
	—	—	57	57		引当金
	—	△0	0	—		繰延税金負債
その他	116	△116	—	—		
固定負債合計	324	△0	1,097	1,422		非流動負債合計
負債合計	3,111	△0	1,362	4,474		負債合計
純資産の部						資本
資本金	273	—	—	273		資本金
資本剰余金	1,944	11	30	1,985	g	資本剰余金
利益剰余金	△54	—	△31	△86	A, B C, D E, F	利益剰余金
自己株式	△0	—	—	△0		自己株式
新株予約権	15	△11	△4	—	g	
	2,179	—	△5	2,173		親会社の所有者に帰属 する持分合計
純資産合計	2,179	—	△5	2,173		資本合計
負債純資産合計	5,290	△0	1,357	6,647		負債及び資本合計

(3) 包括利益に対する調整

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

日本基準表示科目	日本基準	表示組替	認識及び 測定の違い	IFRS	注記	IFRS表示科目
	百万円	百万円	百万円	百万円		
売上高	4,362	△579	△569	3,214	E, e	売上収益
売上原価	1,239	△568	△139	531	E, e	売上原価
売上総利益	3,123	△10	△429	2,683		売上総利益
	—	33	7	40	f	その他の収益
販売費及び一般管理費	3,067	△14	△483	2,569	B, C D, E	販売費及び一般管理費
	—	8	1	9	f	その他の費用
営業利益	55	28	60	144		営業利益
営業外収益	10	△10	—	—	f	
営業外費用	17	△17	—	—	f	
特別利益	170	△170	—	—	f	
特別損失	6	△6	—	—	f	
	—	0	2	3	f	金融収益
	—	16	5	21	F, f	金融費用
	—	0	—	0		持分法による投資損益
税金等調整前四半期純利益	212	△143	56	126		税引前四半期利益
法人税等合計	22	—	△15	6		法人所得税費用
	190	△143	72	119		継続事業からの四半期利益
	—	143	—	143		非継続事業からの四半期利益
四半期純利益	190	—	72	263		四半期利益
親会社株主に帰属する四半期純利益	190	—	72	263		親会社の所有者に帰属する四半期利益
四半期包括利益	190	—	72	263		四半期包括利益合計
親会社株主に係る四半期包括利益	190	—	72	263		親会社の所有者
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—	—	—		非支配持分

前第3四半期連結会計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

日本基準表示科目	日本基準	表示組替	認識及び 測定の違い	IFRS	注記	IFRS表示科目
	百万円	百万円	百万円	百万円		
売上高	1,945	△324	△17	1,603	E, e	売上収益
売上原価	528	△324	—	204	E, e	売上原価
売上総利益	1,416	—	△17	1,398		売上総利益
	—	3	—	3	f	その他の収益
販売費及び一般管理費	1,421	—	△59	1,362	B, C D, E	販売費及び一般管理費
	—	3	3	7	f	その他の費用
営業損失(△)	△5	△0	38	32		営業利益
営業外収益	3	△3	—	—	f	
営業外費用	6	△6	—	—	f	
特別利益	—	—	—	—	f	
特別損失	3	△3	—	—	f	
	—	0	—	0	f	金融収益
	—	6	5	11	F, f	金融費用
	—	0	—	0		持分法による投資損益
税金等調整前四半期純利益	△11	—	33	21		税引前四半期利益
法人税等合計	9	—	△3	5		法人所得税費用
	△20	—	36	15		継続事業からの四半期利益
	—	—	—	—		非継続業からの四半期利益
四半期純利益	△20	—	36	15		四半期利益
親会社株主に帰属する四半期純利益	△20	—	36	15		親会社の所有者に帰属する四半期利益
四半期包括利益	△20	—	36	15		四半期包括利益合計
親会社株主に係る四半期包括利益	△20	—	36	15		親会社の所有者
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—	—	—		非支配持分

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

日本基準表示科目	日本基準	表示組替	認識及び 測定の違い	IFRS	注記	IFRS表示科目
	百万円	百万円	百万円	百万円		
売上高	6,500	△1,048	△561	4,890	E, e	売上収益
売上原価	1,780	△1,037	△139	602	E, e	売上原価
売上総利益	4,720	△10	△421	4,287		売上総利益
	—	35	7	42	f	その他の収益
販売費及び一般管理費	4,685	△14	△507	4,163	B, C D, E	販売費及び一般管理費
	—	53	△0	52	f	その他の費用
営業利益	34	△14	94	114	f	営業利益
営業外収益	13	△13	—	—	f	
営業外費用	27	△27	—	—	f	
特別利益	170	△170	—	—	f	
特別損失	58	△58	—	—	f	
	—	0	2	3	f	金融収益
	—	32	92	124	F, f	金融費用
	—	0	—	0		持分法による投資損益
税金等調整前当期純利益	132	△143	4	△5		税引前損失(△)
法人税等合計	△35	—	△29	△65		法人所得税費用
	168	△143	34	59		継続事業からの当期利益
		143	—	143		非継続事業からの当期利益
当期純利益	168	—	34	203		当期利益
親会社株主に帰属する当期純利益	168	—	34	203		親会社の所有者に帰属する当期利益
包括利益	168	—	34	203		当期包括利益合計
親会社株主に係る包括利益	168	—	34	203		親会社の所有者
非支配株主に係る包括利益	—	—	—	—		非支配持分

(4) 表示の組替に関する注記

以下の項目については、IFRSの規定に準拠するための表示の組替であり、利益剰余金及び包括利益に影響を及ぼしません。

- a. 日本基準において投資有価証券に含めて表示しておりました持分法適用関連会社に対する投資について、IFRSでは持分法で会計処理されている投資として表示しております。
- b. 日本基準において区分掲記していた売掛金、未収入金及び貸倒引当金は、IFRSでは営業債権及びその他の債権として表示しております。
- c. 日本基準において区分掲記していた買掛金、未払金、及び解約調整引当金は、IFRSでは営業債務及びその他の債務として表示しております。
- d. 日本基準において区分掲記していた短期借入金及び1年内返済予定の長期借入金は、IFRSでは流動負債の有利子負債として表示しております。また、日本基準において区分掲記していた長期借入金及び1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債は、IFRSでは非流動負債の有利子負債として表示しております。
- e. IFRS適用において、当事者として関与している取引は売上収益及び売上原価を総額表示し、代理人として関与している取引は純額表示しております。
- f. 日本基準において営業外収益、営業外費用、特別利益及び特別損失として表示されていた金額のうち、支払利息などの金融関連項目については、IFRSでは金融収益及び金融費用として、固定資産の除売却損益や減損損失等については、IFRSでは販売費及び一般管理費、及びその他の収益及びその他の費用として表示しております。
- g. 日本基準において純資産の部に区分掲記していた新株予約権について、IFRSでは資本剰余金またはその他の金融負債として表示しております。
- h. その他IFRS科目に合わせて集約・別掲の表記をしております。
- i. 日本基準において現金及び預金に含めていた預入期間が3か月超の定期預金について、IFRSではその他の金融資産(流動)として表示しております。

(5) 認識及び測定の違いに関する注記

利益剰余金に関する差異調整の主な項目は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	IFRS移行日 (2020年4月1日)	前第3四半期 連結会計期間 (2020年12月31日)	前連結会計年度 (2021年3月31日)
日本基準の利益剰余金	△223	△32	△54
認識及び測定の違い			
A. 金融商品	△4	△4	0
B. のれん	—	82	124
C. リース	—	△4	△6
D. 従業員給付	△52	△58	△48
E. 企業結合	—	7	7
F. 新株予約権	—	—	△88
その他	△7	△13	△19
認識及び測定の違い合計	△63	8	△31
IFRSの利益剰余金	△287	△23	△86

主要な差異の内容は、以下のとおりであります。

A. 市場性のない資本性金融商品

日本基準では、市場性のない資本性金融商品について取得原価で計上しておりました。IFRSでは、IFRS第9号「金融商品」に基づきその他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融商品に分類しており、市場性の有無に関係なく公正価値で測定し、その変動額はその他の包括利益を通じて認識しております。

B. のれん

日本基準では効果が発現すると合理的に見積られる期間にわたって規則的にのれんを償却しておりましたが、IFRSでは企業結合により発生したのれんは、每期、または兆候を識別した場合減損テストを行っております。

C. リース負債及び使用権資産

日本基準では、借手のリースについてファイナンス・リースとオペレーティング・リースに分類し、オペレーティング・リースについては通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行ってまいりました。IFRSでは、借手のリースについてファイナンス・リース又はオペレーティング・リースに分類せず、リース取引について使用権資産及びリース負債を認識しております。

D. 未払有給休暇

日本基準では会計処理をしていなかった未消化の有給休暇について、IFRSでは「その他の流動負債」として負債計上しています。

E. 企業結合

株式会社アイ・ステーション及び株式会社Patch (現社名 Renxa株式会社)の企業結合日について日本基準ではみなし取得日 (2020年7月1日) としておりましたが、IFRSでは2020年8月1日に調整しております。

F. 新株予約権

日本基準では会計処理が求められていなかった新株予約権の公正価値評価について、IFRSでは公正価値で測定し、その変動額は純損益として認識しております。

(6) キャッシュ・フローに対する調整

日本基準では、オペレーティング・リース及び賃貸契約に係る支払いリース料及び賃貸費用は、営業活動によるキャッシュ・フローに区分しておりますが、IFRSでは、原則としてすべてのリースについて、リース負債の認識が要求され、当該負債の返済による支出は、財務活動によるキャッシュ・フローに区分しております。

15. 承認日

2022年2月14日に当要約四半期連結財務諸表は、取締役会によって承認されております。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年2月14日

I N E S T株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 川 村 英 紀

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 永 井 公 人

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているI N E S T株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、I N E S T株式会社及び連結子会社の2021年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査等委員会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。